

2013年4月15日

株式会社 テクノ・システム・リサーチ

URL <http://www.t-s-r.co.jp>

東京都千代田区岩本町 3-7-4 TSR ビル

代表取締役社長 藤田正雄

TSR - Press Release

モバイル M2M によるデータトラフィックは 2017 年には 5 倍以上に増大

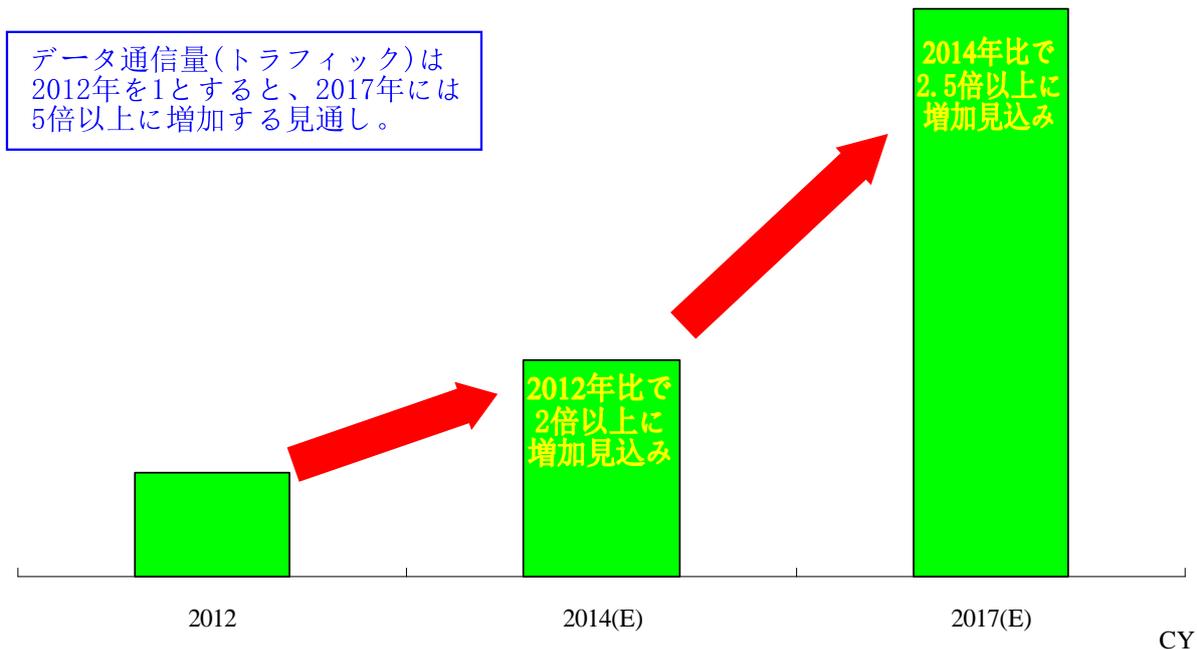
～ 車載用途や BEMS、画像伝送などの利用でデータ通信量が増加 ～

株式会社テクノ・システム・リサーチは、国内における携帯電話や PHS などのモバイル回線を利用した M2M (Machine to Machine) 市場に関する調査報告書『国内モバイル M2M 市場動向調査 (2012 年版)』の「第 2 部 データ通信量編」を 4 月に発刊しました。本調査資料は 3 月に発刊した「市場動向編」と 2 部構成を取ります。

コンシューマ製品を除いた法人向けモバイル M2M 市場におけるデータ通信量(トラフィック)は、2012 年 12 月の月間データ通信量を 1 とした場合、2014 年 12 月にはその 2 倍以上に増加し、2017 年 12 月には 5 倍以上に増加する見通しとなった。

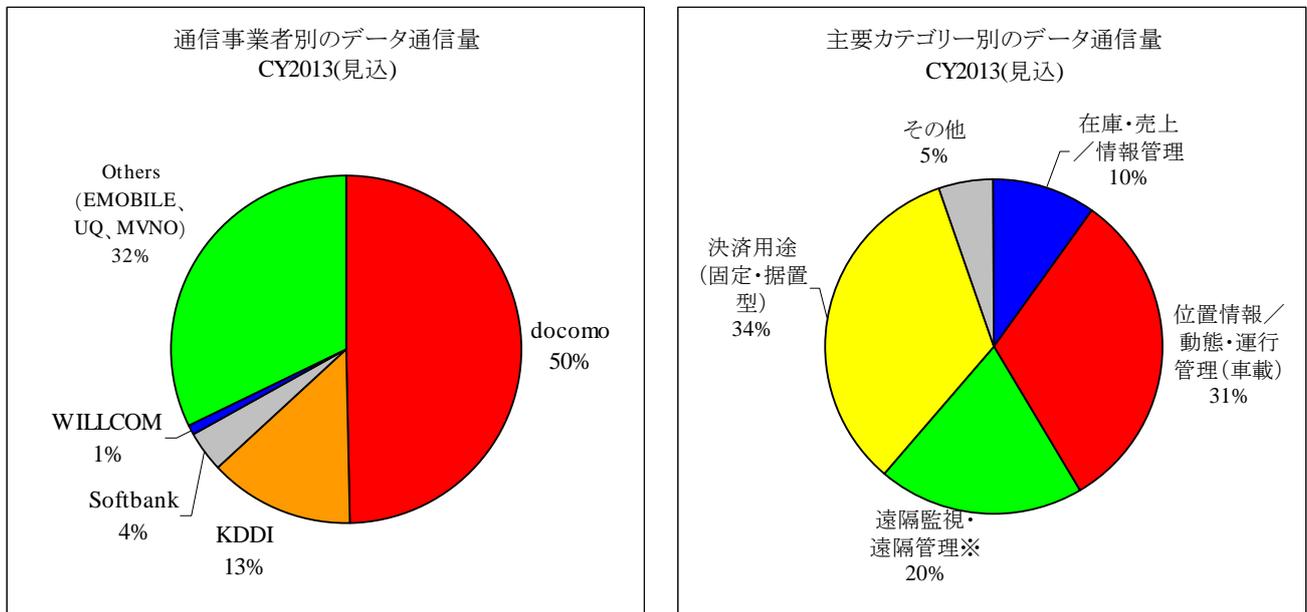
2014 年までのデータ通信量の増加は、主にタクシーなどの業務用車両での利用や BEMS などといった、1 回線あたりのデータ通信量が多い用途の契約件数の伸びが要因になると見込まれる。2015 年以降に関しては、市場全体の契約回線数の増加と、自家用車向け M2M サービスの導入促進によるデータ通信量の増加が要因と予測される。

モバイルM2Mにおける総データ通信量の増加



このほか、動画や静止画などの画像伝送用途でも 1 回線あたりのデータ通信量は多く、セキュリティカメラやエリア監視などの用途でモバイル M2M の利用が伸びれば、それに比例してデータ通信量も伸びる見通しである。

その一方で、機器の遠隔監視などは比較的データ通信量が少なく、さらに、接点情報や異常検知、子供の見守りなどの用途では、異常が発生した時のみデータが送信されるため、データ通信量は極めて少ないと見られる。



通信事業者別では、決済用途向けに多くの回線を提供している docomo 回線が市場の半分を占めている。また、タクシー向けの用途が多い MVNO もデータ通信量が多くなる見通しである。KDDI 回線や WILLCOM 回線は、小容量データを送受信する M2M サービスでの利用が多いため、現状での市場シェアはそれほど大きくないと見られる。

また、モバイル M2M 市場におけるトラフィックを、総務省が発表した「我が国の移動通信トラフィックの現状（平成 24 年 12 月）」と比較すると、2012 年 12 月時点では全体の 1% に満たないことが分かった。これは現状ではスマートフォンやタブレット PC などでも利用されるデータ通信量が市場の大半を占めているからと見られる。

【資料紹介】

『国内モバイル M2M 市場動向調査（2012 年版）』は「第 1 部市場動向編」と「第 2 部データ通信量編」の 2 部構成を取っています。「第 1 部」がコンシューマ製品を含む M2M 市場を調査対象とし、契約回線数で市場規模とその動向を分析した。「第 2 部」では法人向け M2M 市場のみを調査対象とし、同市場におけるデータ通信量（トラフィック）で市場規模と動向を分析した。

第 1 部と第 2 部は別冊となっており、別々のご購入も可能となっているが、第 1 部と第 2 部のセット購入割引も行なっています。

【プレスリリース及び資料のお問い合わせ先】

株式会社テクノ・システム・リサーチ
第 3 グループ 戸波勝徳(tonami@t-s-r.co.jp)
TEL:03-3866-4505